

さらゆき（業務加工用） ー多収なポテトサラダ用新品種ー

北海道立総合研究機構 北見農業試験場
作物育種グループ 研究主査

まつなが
松永

ひろし
浩

1 育成の背景

北海道のばれいしょ栽培面積は平成29年で51,300haであり、そのうち3分の1は生食用品種が作付けされている。このうちスーパー等で家庭向けに販売される市場用途が減少しているのに対し、ポテトサラダ、コロケ等に使用される業務加工用の需要は増加傾向にある。しかし、作付面積は減少の傾向にあり、業務加工用原料の安定供給のために収量性の向上が要望されている。また、ばれいしょの安定生産にとって健全な種いもの供給は重要であるが、種いも生産では罹病株の抜き取りを始め栽培管理の負担が大きいため、これを担う農家数

は減少している。このため作業軽減が可能なウイルス病抵抗性品種への要望が高まっている。

「さやか」は、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、ポテトサラダ加工適性が高いことから、業務加工用原料として作付けが行われている。しかし、そうか病に対する抵抗性が弱く、ウイルス病抵抗性も有していない。そのため安定多収で病害抵抗性の強い品種が求められていた。

2 来歴および育成経過

「さらゆき」は、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ高品質業務加工（ポテ

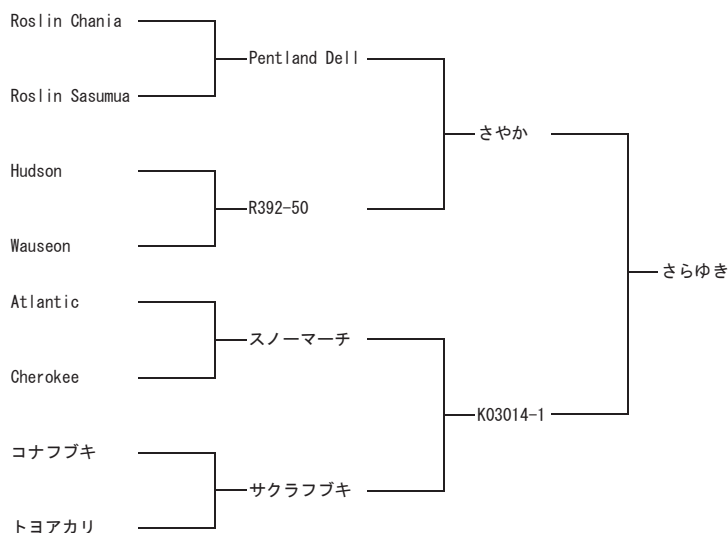


図1 「さらゆき」の系譜

トサラダ)原料用品種の育成を目標として、「さやか」を母、「K03014-1」(「サクラフブキ」由来のYモザイク病抵抗性、「スノーマーチ」由来のそうか病抵抗性を合わせ持つ)を父として、平成19年に北海道立北見農業試験場にて人工交配を行い、平成20年に播種した実生集団より選抜された系統である(図1)。

平成21年に第二次個体選抜試験に供試後、「K07002-16」の系統名を与え、系統選抜試験、生産力検定予備試験、生産力検定試験ならびに品質、収量、耐病性による選抜を進めた。平成25年に「北系52号」の系統名で生産力検定試験、道内関係機関の系統適応性検定試験、地域適応性検定試験並びに特性検定試験、加工適性研究会によるポテトサラダ・コロッケ等の業務加工適性評価試験に供試した。その結果、特にポテトサラダ加工適性が優れ、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性・Yモザイク病抵抗性および中程度のそうか病抵抗性を持つことから平成27年に「北育24号」の地方番号を付与して奨励品種決定基本調査に供試し、平成28年に奨励品種決定調査(現地試験)に供試して実用性を検討してきた。検討の結果平成31年に北海道優良品種に認定された。また、令和元年6月に「さらゆき」として品種登録出願し、同年9月5日に出願公表された。

3 品種特性の概要

(1) 形態的特性

茎長は「さやか」とほぼ同じである(写真1)。花の色は「さやか」と同じ白だが、蕾の色が「さやか」ではやや紫色に着色するのに対し「さらゆき」では着色がないという違いがある。塊茎の形は「さやか」と同様の短卵形である。目はやや浅で、肉色は白である(写真2)。褐色心腐、中心空洞などの内部障害は「さやか」並に少ない。



写真1 開花期の草姿。左が「さらゆき」、右が「さやか」

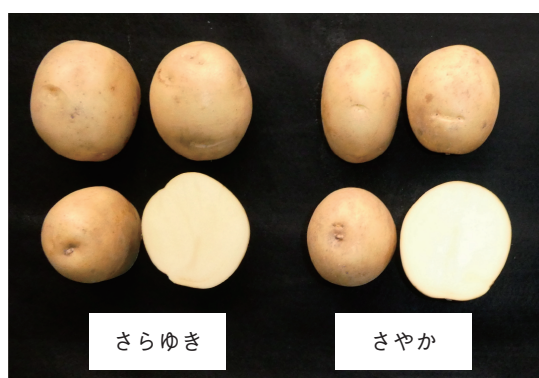


写真2 左が「さらゆき」、右が「さやか」の塊茎

表1 塊茎の特性

	形	肉色	目の深さ	褐色心腐	中心空洞	二次生長	打撲耐性
さらゆき	短卵	白	やや浅	微	無	少	強
さやか	短卵	白	浅	微	無	微	強

注) 打撲耐性は北農研センターにおける特性検定試験による。

表2 生育・収量特性

品種名	枯ちよう期 (月・日)	茎長 (cm)	上いも数 (個/株)	上いも 平均重 (g)	上いも重 (kg/10a)	規格内 いも重 (kg/10a)	さやか 対比 (%)	でん粉価 (%)
さらゆき	9.8	64	13.4	98	5,696	4,863	112	15.2
さやか	9.7	60	10.0	116	5,071	4,359	100	14.7

注1) 生育・収量特性は、試験研究機関4場所、平成27～30年の平均。

注2) 上いも重は20g以上の塊茎。規格内いも重は60～260gの塊茎である。

塊茎の打撲黒変耐性は「さやか」と同様の“強”である。(表1)。

(2) 生態的特性および収量

枯ちよう期は「さやか」と同等の中生で、萌芽期は「さやか」と同等かやや早い。上いも数は「さやか」より多く、上いもの平均重は「さやか」よりやや小さい。規格内いも重は試験場所の平均で「さやか」対比112%と多収である。でん粉価は「さやか」に比べ同等～やや高い(表2)。

(3) 病害虫抵抗性

「さやか」と同様にジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有する。疫病抵抗性は「さやか」と同様に弱い。そうか病抵抗性は「さやか」の“弱”に対して“中”、Yモザイク病抵抗性は「さやか」の“弱”に対して“強”

と「さやか」より優れる(表3)。

(4) 加工適性

ポテトサラダ加工適性については、加工適性研究会の調査としてサラダメーカー2社で試作及び評価を実施した。その結果「さやか」と同様の“やや良”の評価であった(表4)。製品の食味について、甘み、風味が有り、食感が滑らかなことが良好であると評価された。

4 適地および栽培上の留意点

「さらゆき」は「さやか」に対して多収であり、Yモザイク病抵抗性、そうか病抵抗性が優る。また加工メーカーの評価によるポテトサラダ適性は「さやか」並に優れている。Yモザイク病抵抗性は、農家数の

表3 病害虫抵抗性

品種名	ジャガイモシスト センチュウ	疫病	そうか病	Yモザイク病	塊茎腐敗
さらゆき	有(H1)	弱	中	強	中
さやか	有(H1)	弱	弱	弱	やや強

注) 北見農試・中央農試の特性検定試験による。

表4 ポテトサラダ加工適性

品種 系統	A 社			B 社			評価
	□	○	◎	△	□	○	
さらゆき	2	10	0	0	4	12	○
さやか	1	4	7	0	8	6	○

注1) ばれいしょ加工適性研究会による総合評価。

(◎:良、○:やや良、□:中、△:やや否、×:否の5段階評価)

注2) 数値はそれぞれの評価となった回数を示す。

注3) H25～28年実施 同一年次に複数回の評価を実施。

減少により一件当たりの面積が増加し負担が増している種いも栽培において、罹病株の抜き取り作業軽減の要望に応えられるものと考えている。

以上のことから「さらゆき」を「さやか」と置き換えて普及することにより、業務加工用原料の安定供給が可能となり、北海道ばれいしょの安定生産及び栽培振興に貢献できるものと期待している。

適応地帯は北海道一円で、普及見込み面積は1,500ヘクタールを想定している。

栽培上の注意としては、休眠期間が“やや短”であるので、収穫後の貯蔵温度に留意すること。また、上いもの平均重が「さやか」に比べ軽く加工時の歩留まりに影響する可能性があるため、植え付けに当たってやや疎植にすることにより、規格内いも重に影響なく「さやか」並の平均重とするこ

とができる（図2）。

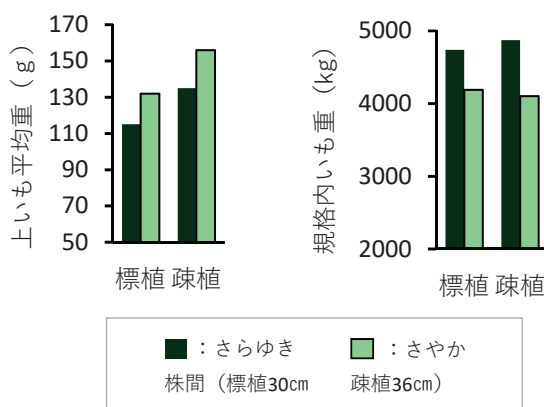


図2 標準植と疎植の比較（2015～17年平均）

なお、本成果は農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（イノベーション創出強化研究推進事業）により得られたものである。